

CL-2- i -02	薬物治療 I	第 2 学年	後期 必修	1.5 単位
担当者	武藤 章弘・清水 孝恒			
一般目標 (GIO)	疾病と薬物の作用に関する知識を修得し、医薬品の作用する過程を理解する。免疫・炎症・アレルギー、関節および血液・造血管系に作用する医薬品の薬理および疾患の病態・薬物治療に関する基本的知識を修得し、治療に必要な情報収集・解析および 医薬品の適正使用に関する基本的事項を修得する。			
到達目標 (SBOs)	<p>【薬物治療の位置づけ】</p> <p>代表的な疾患における薬物治療、食事療法、その他の非薬物治療の位置づけを説明できる。</p> <p>【抗炎症薬】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 抗炎症薬および解熱性鎮痛薬の薬理および臨床適用を説明できる。 2. 抗炎症薬の作用機序に基づいて炎症について説明できる。 <p>【免疫・炎症・アレルギー疾患の薬、病態、治療】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. アレルギー治療薬の薬理および臨床適用を説明できる。 2. 免疫抑制薬の薬理および臨床適用を説明できる。 3. アレルギー疾患について、治療薬の薬理、及び病態・薬物治療を説明できる。 4. 薬物アレルギーについて、原因薬物、病態および対処法を説明できる。 5. アナフィラキシーショックについて、治療薬の薬理、および病態・薬物治療を説明できる。 6. 尋常性乾癬、水疱症、光線過敏症、ベーチェット病について、病態・薬物治療を説明できる。 7. 臓器特異的自己免疫疾患について、治療薬の薬理、および病態・薬物治療を説明できる。 8. 全身性自己免疫疾患について、治療薬の薬理、および病態・薬物治療を説明できる。 9. 関節リウマチについて、治療薬の薬理、および病態・薬物治療を説明できる。 10. 臓器移植について、拒絶反応および移植片対宿主病の病態・薬物治療を説明できる。 <p>【化学構造と薬効】</p> <p>免疫・炎症・アレルギー疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効の関連を概説できる。</p> <p>【血液・造血管系疾患の薬、病態、治療】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 止血薬の薬理および臨床適用を説明できる。 2. 抗血栓薬、抗凝固薬および血栓溶解薬の薬理および臨床適用を説明できる。 3. 貧血について、治療薬の薬理、および病態・薬物治療を説明できる。 4. 播種性血管内凝固症候群について、治療薬の薬理、および病態・薬物治療を説明できる。 5. 血友病、血栓性血小板減少性紫斑病、白血球減少症、血栓塞栓症について、治療薬の薬理、および病態・薬物治療を説明できる。 			
受講心得・準備学習等	講義ではプリントを中心に行っていくので、予め該当する内容に関して教科書を確認すること。免疫に関する基礎知識については、参考書の「免疫学はやっぱりおもしろい」、「薬系免疫学」を一読しておくことよい。症候・疾患などの専門的な事項を扱うので、講義日程を確認しながら「薬系免疫学」、教科書を一読し、概略をつかんでおくことを勧める。			
事後学習・復習等	病態、疾患、治療と専門的な内容となるので、配布プリント、教科書を中心にして、きちんと把握しておくことが大切である。毎回、講義で配布するプリントの中で重要と思われる項目を指摘するので、その部分を「病気がみえる」などの参考書等でさらに深く 30 分程度は学習することを勧める。			
オフィスアワー	おおむね毎週火曜日午後 5 時から 6 時、毎週水曜日午後 5 時から 6 時半。			

授業の形式と各回の内容

授業の形式		講義プリントに沿って、講義形式で行う	
回	項目	内容	担当者
1	薬物治療とアレルギー疾患 1	薬物治療の位置づけ、アレルギー疾患の病態と治療	武藤
2	アレルギー疾患 2	薬物アレルギーとアナフィラキシー	武藤
3	アレルギー疾患 3	アレルギー治療薬とその薬効	武藤
4	炎症	炎症と抗炎症薬	武藤
5	全身性自己免疫疾患 1	免疫寛容と自己免疫疾患、全身性エリテマトーデス	武藤
6	全身性自己免疫疾患 2	膠原病：強皮症、多発筋炎／皮膚筋炎、結節性動脈炎	武藤
7	全身性自己免疫疾患 3	関節リウマチ	武藤
8	全身性自己免疫疾患 4	尋常性乾癬、水疱症、光線過敏症、ベーチェット病	武藤
9	臓器特異的自己免疫疾患 1	アレルギーと臓器特異的自己免疫疾患	武藤
10	臓器特異的自己免疫疾患 2	臓器特異的自己免疫疾患	武藤
11	移植免疫	臓器移植と免疫抑制薬	清水
12	血液・造血器系疾患 1	造血、貧血	清水
13	血液・造血器系疾患 2	血栓止血機構、播種性血管内凝固症候群（DIC）と抗凝固薬	清水
14	血液・造血器系疾患 3	凝固異常症、出血性疾患と止血薬	清水

成績評価の方法	定期試験と課題レポートの成績により評価する。
成績評価の基準	定期試験と課題レポートの評価点の合計が 60 点以上を合格点とする。
教科書	亀井淳三, 齋藤英胤編「Principal Pharmacotherapy」(ネオメディカル)
参考書など	植田正, 前仲勝美編「薬系免疫学」(南江堂) 「病気がみえる vol.6 免疫・膠原病・感染症」(メディックメディア) 「病気がみえる vol.15 血液」(メディックメディア) 星恵子ほか編「やさしい臨床医学テキスト」(薬事日報社) 小安 重夫「免疫学はやっぱりおもしろい」(羊土社)